

府中市生涯学習審議会（平成26年度第6回）会議録

1 日 時 平成26年12月15日（月）午後2時～4時

2 会 場 府中駅北第二庁舎 4階会議室

3 出席者

（1）委員12名（50音順）

石田和男委員、井上治男委員、大谷久知委員、川内清文委員、木内直美委員、
茂田嘉彦委員、設楽厚子委員、芝 喜久子委員、鈴木映子委員、寺谷弘壬委員、
三宅 昭委員、山内啓司委員

※小林 繁委員、澤井幸子委員、田野倉晴美委員は欠席

（2）職員3名

古田生涯学習スポーツ課長補佐、目黒学習推進係長、大木事務職員

4 開会

5 連絡事項

（1）配布資料の確認

①第5回生涯学習審議会会議録（案）

②第6期生涯学習審議会答申（案）、③とうきょうの地域教育 NO,117

④府中市体育協会より通知、⑤府中のスポーツ 第25号

（2）議事録の確認

第5回会議録について、市民に公開することが承認された。

（3）第45回関東甲信越静社旗会教育研究大会（神奈川大会）の報告

11月20日（木）・21日（金）鎌倉市他

[意見の趣旨] ■：委員 ➡：事務局

■ スローガンは「社会教育がつなぐ ひと、地域 そして未来」、研究課題は「今、
社会教育にできること、私たちにできること ～地域社会に貢献する社会教育委員
のすがた～」ということで開催された。記念講演をしたのは、ロサンゼルス五輪で
金メダルを獲得した柔道家の山下泰裕氏であった。熊本県出身で実家は魚屋をして
おり、幼少期は虚弱体質だったため、お祖父さんからスパルタ教育を受けたので、
保育園に入る頃には体格が大きくなり、4歳で身長122センチ、体重20キロを

超えていた。わんぱく少年で、ケンカやイタズラに明け暮れるようになり、あまりのわんぱくぶりに同級生から「山下がいるから学校に行きたくない」と言われてしまう程で、お母さんは隣近所に頭を下げる日々だった。その頃から体育に対するの関心があったようで、小学校1年生の1月に柔道を始めた。小学校6年生では熊本県の柔道大会で優勝、中学時代には監督の厳しい指導の下、基本的な柔道に取り組んだことで力を付け、全国中学校柔道大会での団体戦に2、3年生で出場し、オール1本勝ちをして中学の優勝に貢献した。中学2年生の時、将来の夢を書いた作文の中で、オリンピックに出場してメインポールに日の丸を掲げながら君が代を聞きたい、柔道のすばらしさを全世界の人々に広げる仕事がしたいと書いていた。柔道から学んだことは、瞬間を努力して生きる、良いと思った気付きに遅いことは無いので、すぐ実行するという生き方、在り方を多くの先輩から学んだ。

現在、自分の理想とする柔道界の育成を目指して、柔道精神教育を推進している。今までは常に自分が上にいたので相手のことを考えられなかった。何事も努力は必要で、登るのをやめて振り返った時に頑張ったと自分を褒められるようなことをしたい。相手を思い、心にどう感じさせることができるのかという精神を持って活動している。

シンポジウムについては、「今、社会教育委員に求められること～活力と魅力あふれる地域をめざして～」は、基調提案者1名、シンポジスト3名、コーディネーター1名で行われた。内容は、社会教育の推進は社会教育委員が行うものであるが、現在は社会教育主事が行っている。社会教育の実施と計画をする人の会議が未だにある。行政主導であり、委員の発案が少ない。行動する社会教育委員とボランティアの住み分けが分かりにくい。税金を使っての学習は優先順位が必要なので、行政と打ち合わせてやらなければならないという意見が出た。また、第三者機関が社会教育評価を行っているが、趣味の学習が地域で役立っているという結果が出ている。

社会教育委員の行政に対する答申については、市民と公開討論を行って「見える化」を行っている。社会教育委員に期待することというのは、地域を動かす若者を育成することではないか。全体として社会教育委員が各地方でやっているということがこの中で発表されていた。

- 生涯学習と社会教育の違いを話していた。社会教育はより良く生きるために意図された学習であるということが印象的だった。次に各分科会での報告をいただきたい。
- 居場所づくりの話が出ていたが、居場所づくりというのは何を以って言っているのかよく分からなかった。私が考えているのは、基本的には生涯学習は勉強する側と教える側に分かれると思う。その辺のところははっきりしていない。

- 第1分科会「地域づくりと社会教育」について、新潟県と神奈川県の方々が発表した。福祉協議会と連携して社会教育委員が何かをやるという話をしていたが、社会教育委員と社会福祉協議会の人たちがいる地区に交流があるからできることだと思った。テーマがあるわけでもなく、1人の人が両方に携わっているからできることだと思った。社会教育委員の独自の研修を色々なところでやっているが、府中は会議のみなので、そういうところは勉強するべきである。また、コミ協とのタイアップが必要である。
- 第4分科会「社会教育施設のあり方」については、事例発表が西東京市で、「地域資源の活用と事業支援による社会教育施設の可能性」というテーマで、西東京市の色々な説明や社会教育委員の取り組み、地域資源の有効活用等についてお話しされていた。富士吉田市の事例発表は、山梨県の月見草は白色なのだが、地元の人でさえ本当の月見草を知らないということで、月見草を啓発することによって、地域の活性化に努めているそうだ。川崎市の事例発表は、現代の若者と地域社会ということで、若者の居場所づくりについてお話しされていた。

(4) 都市社連協 交流大会の報告

11月29日(土) あきる野市

- 秋川キララホールで開催された。第1～5ブロック研修会の報告後、基調講演では放送大学の岡崎教授が、開かれた学校の必要性についてお話しされていた。学校は子どもたちに教育するところを広げて地域を入れ込み、子どもたちが落ち着かなくなるのではと憂いていた。
- その後のグループ討議では、コミュニティースクールについての話が多かった。各市町村ではコミュニティースクールの有無がはっきり分かれており、基本的なもの、文科省が推進しているもの、独自でやっているもの等、3種類程あるそうだ。話を聞いていると、PTAの延長上に拡大したものがコミュニティースクール化した印象を受けているが、まだ何が良いのかは分からない。
- グループでそれぞれ違う話になっていたと思う。各市の社会教育や生涯学習の状況やその市の抱える問題について話していた。各グループで話し合ったことを参考にして、次年度の都市社連協のテーマにしていくということだった。

6 審議・協議事項

(1) 答申案の検討について

■ 前回から2回目の検討になるが、事務局より校正案を出していただいているので、説明をお願いしたい。

➡ 前回、「はじめに」を検討していただいたので、その結果を反映させている。「1. 学び返しの体勢づくり」と「2. 生涯学習の担い手～ファシリテーター・サポーターの育成と活用～」については、原案の意図と変わらないように書き方を整理した。この点については、意味が変わっている等ご指摘いただきたい。校正を入れた箇所、順番を入れ替えているだけの箇所にも下線を引いている。

(「はじめに」を説明)

■ 前回のときに出ていない文言も含まれているが、段落毎にご意見を伺いたい。

■ 下から7行目の後半「市民活動を区別することなく市民は活動している」は「活動」が2回繰り返されているので、後半の「市民は実践している」にしてはどうか。

(一同承認)

■ 上から7行目「府中市ならでは」という言葉が出てくるが、府中市だけしかできないと捉えていいのか。

➡ 「学び返し」という言葉は近隣市や東京都内では定着しつつあるが、その言葉を府中市は提唱してきたということを強調している。「ならでは」という言葉にこだわってはいない。

■ 提唱する時点で府中市が先駆的な役割をしてきたという意味を含めて、「府中市独自」はどうか。

■ どう解釈していいか分からなかった。読んだ方が分かるのであれば、そのままでも良いと思う。

■ 下から9行目「行政が主体となっていく学校教育や社会教育の範疇を出て」について、「社会教育」にも「行政が主体となっていく」がかかってくるように思ってしまうので、句点を入れた方が分かりやすい。

➡ 「社会教育」にもかかって良い。

■ 先日の出席したシンポジウムでも、「社会教育は意図された学習の場」と言っていたので、意図された部分は行政の部分なのだと思っていた。

➡ 社会教育的なことをやっていないと申ししていたが、第1次安倍内閣のときに教育基本法が改正され、教育とは、学校教育、社会教育、家庭教育の3つであると法律的に整理された。家庭教育は親、保護者が行うものなので、行政が行うものは学校教育と社会教育だとはっきり法律に書かれた。家庭教育については、平成19年の改正教育基本法において初めて法的に明記された概念で、親、保護者の家庭教育を行政が支援するという内容も条文に追加されたので、親に対して子育て講座を開くというのを文科省が推奨している。府中市は元々やっているが、国が推奨している

ので補助金が出るようになった。その補助金を貰う代わりに家庭教育を審議する場を設けることになったので、来年度以降は家庭教育支援についての審議も生涯学習審議会で行っていただきたいと思っている。

- 答申案で気になった箇所はあるか。
- 下から9行目の後半「社会教育の範疇」とあるが、「範ちゅう」と表記するのではないか。
- ➔ 訂正する。
- 4段落目1行目「改めて振り返ると」から3行目「ものであるため」は生涯学習の説明をしていて、3行目「行政が主体となって」からはスポーツや文化活動について話している。4段落目は全て一文で分かりにくいので、3行目からは5段落目に含めてはどうか。
- ➔ 3行目「行政が主体となって行う学校教育や社会教育の範疇を出て」を削除するだけでもすっきりすると思う。
- それでも良いが理解しづらいので、どこかで切った方が良く思う。
- 3行目はあった方が、行政が主体となって行う活動と市民が自発的に行う活動が対比できる。
- 3行目「行われるものである。」で切って良いか。
(一同承認)
- 下から8行目「文化・学究活動」の「学究」は専門に研究するという意味なので、一般の生涯学習に「学究」は合わない気がする。「文化活動」に含めて「学究」は削除しても良いと思うので提言しておく。
(「1. 学び返しの体勢づくり」を読み上げ、説明)
- 「(1) 相談窓口及びコーディネーター機能の充実と周知」について、何かご意見はあるか。
- 「1. 学び返しの体勢づくり」の「体勢」について、この場合は「体制」を使うのではないか。
- ➔ 小委員会でも話が出ていて、どちらでも意味は通る。語感の問題で、勢いがある、動きがあるようなイメージで「体勢」を使っている。
- 一般的には「体制」を使うようだ。
- 事務局に任せる。
- 小委員会では、「一元的」は統制的という意味もあり、この答申では多元的な意味に対する「一元的」で使っている。情報の中には多元的なものもあるので、なるべく使わない方が良く言った。
- 一本化するという意味で使っている。

- 情報を集めるという意味で使っているが、管理するという意味に捉えられると語弊がある。
- 「体勢」も間違っていると思われる可能性がある。
- 集約と管理の中に「一元的」という意味が含まれていると思う。
- ➔ 市民にとっては、ワンストップサービスのような形で情報が提供できるのが重要だと思うので、言い回しについては検討させていただく。冒頭の部分の「一元的」も併せて検討する。
- 「連携して情報を一括管理」はどうか。
- どこが「一括管理」するのが問題になる。
- 「連携して多角的な情報を管理」にした方が良い。コーディネーターは一人ではないので色々な情報があると思う。「管理」の中に「一元的」の意味も入ってくる。
- 冒頭の一文「一元的に集約し」を「多角的に管理し」にする。7行目「連携して一元的に情報を管理し」の「一元的」も「多角的」に訂正する。
- 明らかに相談窓口を設置するというニュアンスを出したい。中の文章だと、どこでも相談できる場所が必要だとしか書いていなく、窓口を設置するとは書いていない。その窓口そのものを設置したいという内容を入れたい。
- 他の項目に入れている。
- この項目で言いたい。この項目で言わないと、相談窓口コーディネーター、場合によってはファシリテーターを配置するという流れができあがらない。
- ➔ 窓口としては置かれていないが、どこかと聞かれれば学習推進係が窓口になりうるというニュアンスにした。
- 「相談窓口を明確にする」でも良い。
- (1)の1行目の後半「知られていることが必要で」の後に、「相談窓口を明確に周知されなければならない。」と追記してはどうか。

(一同承認)

7 その他

(1) 次回審議会の日程について

▽平成27年1月26日(月)午後2時

会場：府中駅北第2庁舎 4階会議室

以上